

「幸せ」ってどんなこと

小三

ぼくはこの前、図書館で車いすの人を見ました。車いすは足が動かさない人が乗るものなので、「かわいそうだな。」と思いました。でも、もしかしたら、ぼくがかわいそうだと思うだけで、その人は「かわいそう。」と言われたら、心がすごくきずつくかもしれません。

ぼくには、たまごアレルギーがあります。食べられるものもかぎられていますので、それを見た友だちが、「かわいそうだね。」と言いました。そのとき、ぼくは心の

中で、食べられる物はかぎられているけれど、かわいそうと言われたら心がきずつくと思いました。やっぱり車いすの人もすきで乗っているのではなく、足にしようがいがあるので自由に動かせず歩けないから乗っているの、「かわいそう。」と言われたら心がきずついたり、「車いすなのはぼくだけなの。」と悲しい気持ちになったりするのかもしれないと思いました。

ぼくは、「かわいそう。」と言われるのはいじめではないのに、なぜ心がきずつくのかふしぎに思いました。ぼくには、アレルギーがあるけれど、お母さんやおばあちゃん、給食の先生がアレルギーのあるぼくのためにおいしいごはんを作ってくれるし、たまごが

入っていないクッキーやケーキなどいろいろな物を食べています。だからぼくは、かわいそうなのではなくて幸せです。「幸せなのに、かわいそうだよ」と言われたから心がモヤモヤしたのかな。」と思いました。車いすの人も歩けなくてこまることあるかもしれないけれど、「その人だけが、感じられる『幸せ』があるのかな。」と思います。「かわいそう、幸せは自分で決める。ほかの人が決めることではないのかな。」と思いました。ぼくは、こまっている人がいたら、「かわいそう」ではなくて「だいじょうぶ」と言えるようになりたいです。「みんなにいろいろな幸せがあってほしいな。」と思いました。